

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

2020年 6月 11日

福岡県知事 殿

提出者

住 所 福岡県筑紫野市筑紫1032番地1

氏 名 トヨタモビリティパーツ株式会社

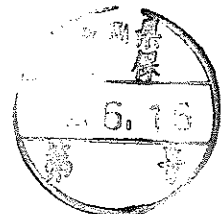
九州北部統括支社

統括支社長 柴垣 正彦

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

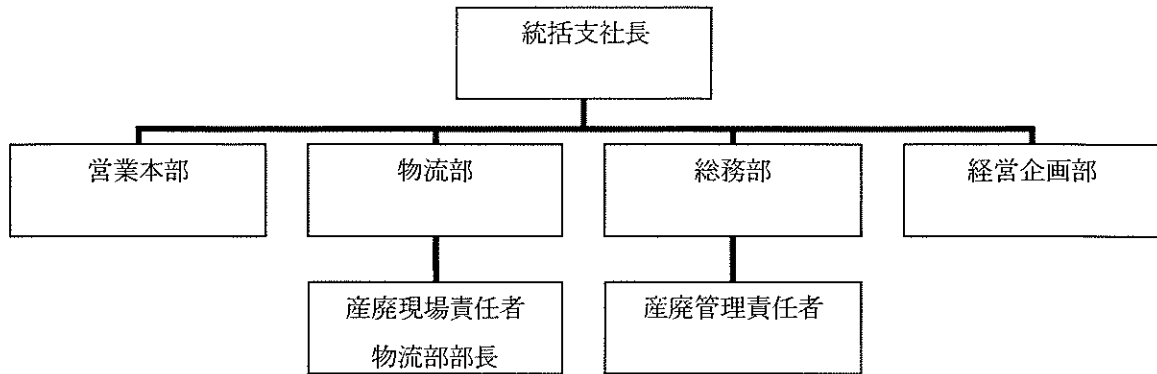
電話番号 092-927-2901

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	トヨタモビリティパーツ株式会社 九州北部統括支社	
事業場の所在地	福岡県筑紫野市筑紫1032番地1	
計画期間	2020年4月1日～2021年3月31日	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項		
① 事業の種類	自動車部品・付属品卸売業	
② 事業の規模	408億円(2019年度売上)	
③ 従業員数	325名(男性261名 女性64名)	
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり	

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（平成 31 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	排 出 量	181.304 t	t
	(これまでに実施した取組) バッテリー販売量が、廃バッテリー排出量に比例する		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 自動車の整備台数が増えると、買い替えにより廃バッテリーの排出量が増加する為、排出抑制に関する計画は特段行っていない。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃バッテリーをそのままの形で(株)大塚商会に運搬委託している。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状通り、(株)大塚商会に委託予定。

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（平成 31 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組) 特筆すべき点なし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組) 特筆すべき点なし		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（平成 31 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組) 特筆すべき点なし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組) 特筆すべき点なし		

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
① 現状	【前年度（平成 31 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組) 特筆すべき点なし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組) 特筆すべき点なし		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（平成 31 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	181.304 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組) 数年来の取引先である(株)大塚商会に運搬委託した。			

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	
	全処理委託量	150 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	— t	t
	再生利用業者への 処理委託量	— t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	t
(今後実施する予定の取組)			
<p>当社は自動車部品販社の為、自社で回収したものを自社で処理することはないが、弊社の環境基本理念、環境基本方針を基に、社内全体の意識向上及び廃棄物の適正処理を含むあらゆる環境問題への対応を検討し取り組む。</p>			
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度（平成 31 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	181.304 t	
	(今後実施する予定の取組)		
電子マニフェスト加入登録済みで2020年4月以降運用開始			
※事務処理欄			

備考

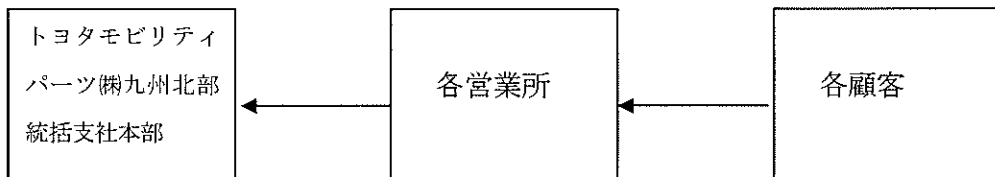
- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程

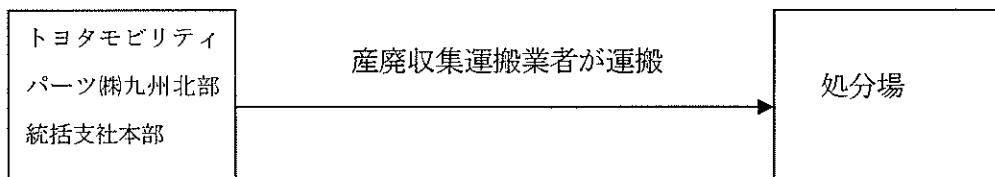
- ① 新品のバッテリーを営業所を通して販売



- ② 新品のバッテリーと交換した廃バッテリーを社内便で営業所から回収



- ③ 回収した廃バッテリーを本社へ一時保管、7～10日毎に産業廃棄物収集運搬業者が処分場へ運搬する。



*当事業所は販売会社のため、バッテリー等の製造は行っていません。